

2019 年度学内研究助成 成果報告書

① 報告者所属・氏名

生活科学部 生活文化学科 塚原拓馬

② 事業名

「産業ストレスにおける組織要因と認知的対処方略の因果モデル検証」

③ 事業の目的

本研究は産業ストレスにおけるメンタルヘルス不全の発生メカニズムを明らかにすることを目的とした。近年、メンタルヘルス不調の問題が増加しており、その解決要件として「組織体制（組織マネジメント）」や「認知的対処方略」が重要視されてきている。

しかし、これまでの産業ストレス領域の理論モデルでは、「組織体制」と「認知的対処方略」との関連からその発生メカニズムについて検証されていない。そこで、本研究は、上記の二要因がメンタルヘルス不全にどのように影響するかを実証的に検討する。

④ 事業実績・研究成果（具体的に）

主に組織的問題とされている成分について統計的に分析し、「6 因子（業務性、職務性、職業性、組織性、経営性 A、経営性 B）」を特定した上で、協力会社における部署別比較と過去のストレスデータとの比較検討を行った。さらに、組織の解決課題として、「経営方針の不明確性」、「不透明なキャリアパス」が特定され、その視点から組織改善を図るために管理職を中心として対策法を協議した。

⑤ 研究成果の発表・活用（学会発表・論文掲載・地域連携・産学連携など）

本研究の中間報告または成果等の一部については下記学会および学会誌にて発表した。

- ・日本産業カウンセリング学会第 24 回大会 シンポジウム
- ・日本発達心理学会第 31 回大会 シンポジウム企画
- ・日本ストレス学会 ストレス研究第 33 号 ほか

⑥ 今後の展開・継続性について

今回の研究について、その効果を検証するため次年度以降も継続して実施することで経年比較を行う。また、抽出因子の妥当性と安定性を高めていくことで、測定ツールの確度を追究していきたい。そして、協力会社（A 社）だけでなく、他の企業に対して適用することで、人材開発、組織改善とメンタルヘルス対策に繋げる実践的研究に発展させたい。

以上